

ビアン の 厨 房 見 聞 録

フランスの消費量No.1 野菜。…でも最初は嫌われもの？

フランスのじゃが芋は、アントワ・ヌ・オーギュスト・パルマンティエという軍隊の薬剤師兼農学者というひとりの人物を抜きに語る事はできません。彼はヨーロッパの七年戦争（フランス革命前）でドイツにおいて捕虜生活を余儀なくされた折、じゃが芋を知る事になります。

フランスにおいて当時は、じゃが芋は毒のある野菜という認識しかなく、その見た目の悪さ（現在のものより小さく、黒かった）からなかなか受け入れられず、さらに民衆は、ジャガイモは聖書に載っておらず、種芋で増えるという理由で「悪魔の作物」として嫌われていました。パルマンティエは、じゃが芋の宣伝作戦として、時の王様ルイ16世とその妻マリーアントワネットにじゃが芋の花をプレゼントするなどして王室を媒体としてフランス全土にじゃが芋の美味しさと栄養価の高さを浸透させていきました。

今では三ツ星のレストランから一般の家庭まで、誰からも愛される野菜となりました。因みに、肉にじゃが芋を付け合せる料理をパルマンティエ風と付いているのは、じゃが芋の普及に大きな功績を果たした彼の名前に由来しているのは言うまでもありません。

ビアン料理長 内野弘誠



お誕生日・結婚記念日・同窓会・歓送迎会…
 少人数から30名様まで各種パーティー承ります。
ご予約・お問合せ
 パン&レストランビアン 06・6568・3443
 大阪府西成区長橋3-7-28 プランコートF
営業時間
 ランチタイム : 11:00~14:00
 デイナータイム: 17:00~21:00(LO)
 パンショップ : 8:00~20:00



なま

発行日 2008年 6月1日
 創刊日 2007年 1月1日
 発行 株式会社ナイス
 発行人 代表取締役 富田一幸
 住所 大阪府西成区長橋3-6-33
 電話 06-6563-1156
 info@nice.ne.jp http://www.nice.ne.jp/

第18号



咲 今月のイベント

釜ヶ崎に花屋がオープンしました

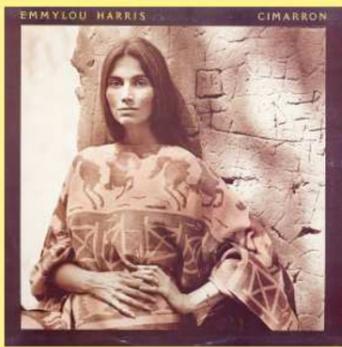
この記事はブログでも紹介しています、ナイスのブログもよろしく

人・街・仕事づくり



N=NICE VIEW《ナイスの視線》で、A=ART《芸術》&AMUSE《楽しませる》や、V=VENTURE《冒険する》&VOICE《声》を、I=ISSUE《発行物》でお届けします。

エミルー・ハリスは、インテリジェンスと美しさを兼ね備えた魅力的な歌手である。清楚で深く透明感のある声は、同時代のジョン・パエスに比較されるが、パエスのやや高踏的で個性ある歌唱に比べると、すいぶん抑制的で人間愛にあふれている。



ひだりまきの 二重逸曲

アナログレコードの逆襲 その13
 エミルー・ハリス「テネシー・ローズ」

アルバム「シマロン」から

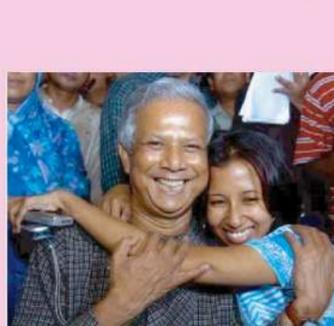
若い頃、ウディー・ガズリーに憧れ、カントリー歌手としてのデビューは早かったが、その道のりは厳しく遅咲き

「テネシー・ローズ」は、81年にリリースされたアルバム「シマロン」(邦題はテネシー・ワルツ)に挿入された曲である。辛い時代を超え、今はその苦しさを痛みも全て受け入れながら、幸せはその苦しみの果てにあるというメッセージが共感を呼ぶ。エミルーの気高いハミングで終わるこの曲は、「これが私よ」という彼女の真骨頂が伝わり、いさぎよさを感じるのだから、ついてながら、同アルバムで聞ける「テネシー・ワルツ」は、定番パティ・ペイジとは違う哀愁を感じさせてくれる。

hidarimaki

ボウの 二重逸曲
 府職員に「皆さんは破産会社の社員」と宣告して、橋下知事が「破産会社の「管財人」のように振る舞いだし、ボウの「まちの銀行」構想は、曖昧をふっきつた。

知事は、「府政改革」を通り越して、「府政開放」に向かっているようだ。ボウは、知遇を得て、働きたいけど、働けないまま放浪する人々に寄り添う府の地域就労支援事業の創設に参画してきたが、費用対効果が低いと存亡の危機に立たされている。人権相談事業なども同様に査定され、廃止を宣告された。府施設の清掃の入れで、障がい者雇用などの公共性を評価する「総合評価入札制度」も先行きが心配だ。ボウは、「社会運動の市場主義者」と「自虐」してきたが、そんなボウの顔を、橋下知事は、走り抜けていきそつだ。



写真は、娘のDinaさんと抱き合っってノベル賞の受賞を喜ぶグラミン銀行ユネス総裁。
 (c)AFP/Farjana K. Godhuly

橋下知事が疾走するゴールは、このまち西成だ。何もかもが市場に開放され、ボウは「ブラックマーケット」と呼んできたが、誰かが、最近、「貧困ビジネス」と言い当てる。「公」が開放した「民」の自由市場は、「人の命も金したい」、「まちの銀行」構想は、曖昧をふっきつた。ボウは、それを被った「ブラック」に絡め取られる、「オセロ」社会だ。

前号の『なま』で、ボウは、橋下知事の「過激派」のような社会観に、若い頃を思い出してエールも送ったが、あるべき社会を描きすぎると、市場に呑み込まれていくと忠告しておく。ボウは、「いい加減」という社会観？にたどり着いた。だから、600億円の生活保護費でまちづくりをする、とボウを吹き始めた。クロをもう一度シロに変えるオセロ、「社会的ビジネス」だ。

そして、ボウは、「まちの銀行」を創りたいと、またボウを吹いたが、飛鳥会事件でたじろいだ。どんな曲解にさらされるかわかったもんじゃない。でも、ボウは、このまちに暮らして、「こんなもんあったらいいなあ」という茶話しにヒ

きたが、誰かが、最近、「貧困ビジネス」と言い当てる。「公」が開放した「民」の自由市場は、「人の命も金したい」、「まちの銀行」構想は、曖昧をふっきつた。ボウは、それを被った「ブラック」に絡め取られる、「オセロ」社会だ。

高まりを、もう抑えることができない。まちの銀行は、「ツルミ・ヒューマンバンク」、愛称は「ツルミンバンク」。グラミン銀行を盗んだ。小さく開店するが、大きく育ってほしい。

(株)ナイス代表取締役 富田一幸

オセロの次の一手はツルミンバンク

